車輌甲板火災に対する消火プラン（モデルケース）

消火班の構成				
	総指揮者：		船長	
	現場指揮者：		一等航海士　（防毒マスク着用）	
	班長（例）		班員（例）	各消防用具　準備分担
	船橋班	船長	三航士B 甲板手（員）B	
	初期消火班	甲板長 防毒マスク着用	甲板手（員）C 甲板手（員）F	バール・斧、消火器収集
	排煙作業班	三航士A	甲板手（員）B （※エラ開放後船橋へ）	
	一班	二航士	甲板手（員）D・G 操機手（員）	Yゲート 2個、ノズル 各4個、 40ミリホース 4本、アプリケーター 2本
	二班	甲板手（員）A	甲板手（員）E 甲板手（員）H	消防員装具・SCBA　3ｾｯﾄ 20L泡放射器 2本（油火災発生時のみ）
	機関室班	機関長	一機士、二機士 三機士　操機長	
	救護班	船客部　２名		AED、 担架、 毛布、 救急医薬品
	※上記赤字は消火用作業服着用者			

＜定員数が異なるため班構成は各船で作成＞

＜ステージ位置：船型ごと作成＞
（敦賀船　すずらん・すいせん例）
2甲板、3甲板火災：
○左舷船尾階段室
（中央ケーシング出入口より船尾側の火災）
○中央ケーシング
（中央ケーシング出入口より船首側の火災）
1甲板火災：中央ケーシング

＜トランシーバー保管場所及び携帯者＞

船橋　３台・・・　一航士、三航士A、当直甲板手
甲板談話室　１台・・・　甲板長
機関室　１台・・・　操機手（員）　⇒　二航士

初期対応

機関室

当直機関士：
電源車供給電源をすべて遮断

船橋

火災警報発令

船長へ報告

車輌甲板

現場確認：当直甲板手（員）
当直甲板手は初期携行品を持ち現場を確認

異常なし・誤作動

火災発生確認

接近可能なら初期消火
不可なら車両甲板から退避

防火部署発令　（総指揮者：船長）

初期消火及び本格消火準備

機関室

機関室班：機関室へ移動
機関長：機関室指示
一機士･操機長：　消防ポンプ
二機士：　機関長補佐
三機士：船橋との連絡･記録

機関室のファンを給気から排気へ切り換え若しくは停止

船橋

消火方針の決定
船内への周知・情報共有
（総指揮補佐　三航士）

排煙作業班

消火方針に基づき、通風扉、機動ファンを運転
・No,1～No,4ファン用エラ開放
・火元より船尾側のファンを給気
船首側のファンを排気とする。

＜上記作業終了後＞
班長：
火災制御室へ移動、スプリンクラーでの本格消火に備え待機
甲板手：
船橋へ移動

車輌甲板

現場指揮者：一等航海士
状況に応じて船長に消火方針を提案・報告・ステージの選定
SCBAの着用を判断・指示

初期消火班
・消火作業服を着用
・火災現場へ移動
・火元の露出
・初期消火
・１班の放水開始で撤退
・１班・２班に合流
・当直甲板手が甲板手C，F
でない場合は初期消火班到
着後、自分の消火班へ向かう

一班
・消火作業服を着用
・機動消防員装具をステージへ移動・放水準備
・SCBA/消防員装具の着用は、現場指揮者の指示に従う
・40mmﾎｰｽ ２条により放水
・ｱﾌﾟﾘｹｰﾀｰﾉｽﾞﾙの有効活用

二班
・消防員装具(SCBA)3ｾｯﾄをステージへ移動
・消防員装具(SCBA)着用
・40mmホース2条により１班　応援放水消火
・延焼防止　放水

スプリンクラー消火

機関室

＜現場・船橋から要請＞
一機士・操機長：
スプリンクラーポンプ起動、確認

船橋

放水消火の継続/断念を決定

スプリンクラー作動指示
火災制御室に元バルブ及び区画バルブ開放、作動区画から乗組員の撤退指示

車輌甲板

現場指揮者：一等航海士
火災現場の状況等を適宜報告
放水消火の継続/断念を判断し報告

全消火班班員は、作動区画から退避

スプリンクラー作動

退避

機関室

退避経路確認

退避開始
機関長：
人員確認の上船橋へ報告

船橋

消火作業の成功/継続/断念を決定

退避指示
（全員の安否を確認する）
関係各所へ救援依頼

車輌甲板

現場指揮者：一等航海士
スプリンクラーの成功/継続/断念/避難に係わる状況を適宜報告・要請

鎮火不能
消火作業断念

退避開始
人員確認の上、船橋へ報告

鎮火

オーバーホール

サルベージ

総員退船部署発令